

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020180

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	15	環境の保全	事業優先度	A		
単位施策	1	自然環境の保護・再生	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	鳥獣残渣等処理事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	9 産業振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	鳥獣残渣の適切な処理		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
事業目標	処理頭数 エゾシカ1500頭		関係例規・法令名	無		
住民参加	無		関係個別計画名	無		
住民協働	無					

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計画 内 容	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理	鳥獣の残渣処理
	事業費(千円)	12,780	2,180	2,650	2,650	2,650
計画 事業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
実績事業費	事業費(千円)	4,331	1,842	2,489	0	0
実績 事業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
関連 事項	特定財源の名称		(実施内容等) 鳥獣の残渣処理	(実施内容等) 鳥獣の残渣処理	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	エゾシカの残渣処理 300頭	エゾシカの残渣処理 300頭	エゾシカの残渣処理 300頭	エゾシカの残渣処理 300頭
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	84%	94%	0%	0%
		全体達成率	14%	34%	34%	34%
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	鳥獣残渣等処理事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	鳥獣残渣	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	エゾシカ残渣処理頭数	
【抱える課題やニーズは】	増加する有害鳥獣残渣の処理、雄武町廃棄物最終処分場への負荷	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	有害鳥獣の捕獲増加、雄武町廃棄物最終処分場の負荷軽減による環境保全	① 残渣処理頭数÷残渣処理計画頭数	目標年度	平成26年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	有害鳥獣による住民生活や農林水産業被害の軽減		目標値	300頭
			実績値	510頭
			達成度	170.0%
		②	目標年度	平成26年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①微生物処理委託の実施	見積合せで、微生物による鳥獣残渣処理業務を委託		
	②施設管理委託の実施	見積合せで、施設管理業務を委託		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	捕獲・駆除した有害鳥獣残渣を微生物の方で処理することで、廃棄容量が大幅に減少することから、直接廃棄処理するよりも衛生的かつ効果的であり、必要性が高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施することで、有害鳥獣の捕獲増加を図ることができ、住民生活や農林水産業被害の軽減を図ることができた。また、雄武町廃棄物最終処分場の負荷軽減に繋がった。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	見積合せの結果、事業費が抑制でき、有害鳥獣の捕獲数の増加に対応することができた。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	カラスやエゾシカなどの有害鳥獣の被害は誰でも受ける可能性があるため公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
増え続ける農林業被害に対し、これまで以上に有害鳥獣を捕獲、処理することが必要不可欠であるため、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
有害鳥獣を捕獲、処理することで、住民生活や農林水産業被害の軽減を図ることができるため、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止